

種山ヶ原は今④⑧ 「山椒魚」 2月26日

今日は天気もいいので、家内と水汲みに出かけた。もう春なのか水場の脇の小川は温み、サンショウウオがゆったりと揺蕩たゆたんでいた。揺れる水面に春を感じた。

そこは「種山ヶ原」の麓、火石という部落で地区民が大野金山の坑道に湧き出る湧水を道路脇まで引き入れ「金山水」と名づけた。他市町村からも水を求めて多くの人が出て来る。飲み屋さんも水を求めて多くやってくる。「金山水」のそばにある屋敷を、ある研究家は宮沢賢治作品の「泉ある家」の家だとも言う。300m先には「風の又三郎」のロケをした旧木細工小学校を地区民が守っている。



「ヤマセミ」

木細工を流れる川が「人首川」だ。この川にはカワセミやカワガラスの他に「溪流の貴公子 ヤマセミ」が住んでいる。白と黒の鹿の子模様の冠を被り、タキシードを着て、全体が薄青く、飛び立つときは白い羽を広げて優雅だ。もうペアリングの時期だが・・・。



「ヤマセミが襲われた」

水汲みの帰り道、ヤマセミの姿が見えた。ヤマセミが枝に留まり、下の魚を狙っていた。早速カメラを向けてシャッターを押そうとした時、突然黒い鳥がものすごいスピードでヤマセミを襲ってきた。猛禽類だろうが、何という鳥か分からないほどだった。多分私達の上空でホバリングしていたのだろう。ヤマセミがどうなったか心配しながら帰り、さっそく猛禽類を調べた。黒い鳥だから「ツミ」という鳥のようにも思う。研究課題がまた増えた。

28日3回目の探索で、襲われた近くの枝に留まっているヤマセミを発見。ホッと！しかし、あのヤマセミかどうかは分からない。飛び去った時の羽の下が、きれいな白だったので、雄。前のヤマセミに間違いはないと思うのだが・・・？。



大谷地堤

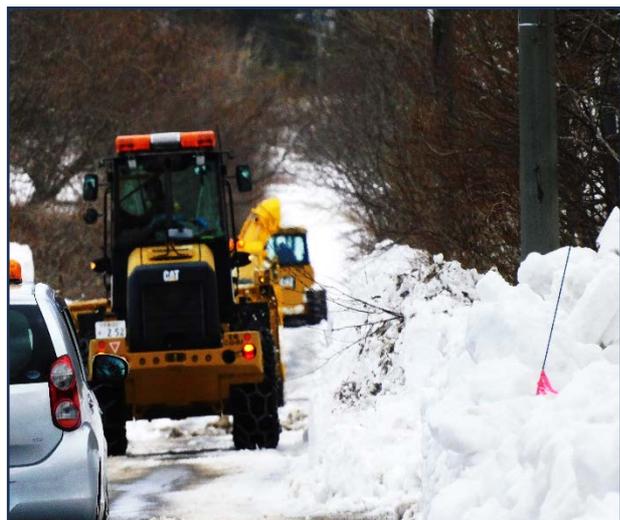
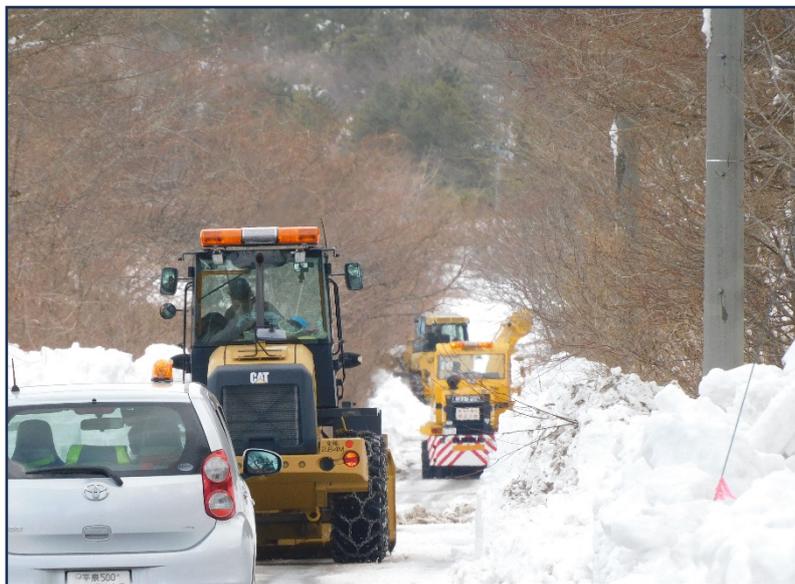
つつみ

五輪峠に行く途中に堤がある。大谷地堤という。この辺には縄文遺跡が二つもあり、入植した開拓者がほとんどで、熱い人が多い。また、この堤は冷害が続いた時、支援事業で作られた堤と聞いている。この堤にはカルガモ、マガモが多く飛来する。秋になるとホシノハジロ、キンクロハジロやスズガモも飛来し、にぎやかになる。



種山ヶ原の雪かき始まる！

3月9日ついに種山ヶ原の雪かきが始まりました。今年は雪が少ないものの下界に比べると多く、麓の農家は今年も安心だ。そして今年も及常建設の除雪機3台が除雪を開始した。見事な連携で作業が進んでいる。



まだ許可ないと入ることはできません。